

4. 学会発表

4. 1. 国内学会

1. 大住倫弘, 住谷昌彦, 西 祐樹, 信迫悟志, 大竹祐子, 森岡 周
ランダムノイズ振動刺激が化学療法誘発性末梢神経障害における手指巧緻性を改善させる
第7回日本がんサポーターズケア学会学術集会. 2022年6月@下関
化学療法誘発性末梢神経障害 (chemotherapy-induced peripheral neuropathy: CIPN) 患者における把握運動のスムーズさがランダムノイズ振動刺激によって向上するのかを検証した.
2. 赤口 諒, 奥埜博之, 森岡 周, 河島則天
脳卒中症例の物体把持課題時の把持力調節特性 — 運動麻痺と感覚障害の関連に着目して —
第59回日本リハビリテーション医学会学術集会. 2022年6月@横浜
脳卒中患者の19名を対象に, 把持力調節特性が運動麻痺と感覚障害どのように関連するかを分析し, 感覚障害との強い関連を明らかにした.
3. 藤井 廉, 今井亮太, 重藤隼人, 田中慎一郎, 森岡 周
腰痛を有する就労者における体幹の協調運動障害と課題特異的な運動恐怖の経時的変化ならびに関連性: 1症例による検討
第26回日本ペインリハビリテーション学会学術大会. 2022年6月@神戸
腰痛を有する就労者1名を対象に, 課題特異的な運動恐怖に着目した産業理学療法を実施し, 体幹の協調運動障害と腰痛症状の経時的変化や関連性を分析した.
4. 井川祐樹, 中村潤二, 西 祐樹, 大住倫弘, 生野公貴
帯状疱疹後の三叉神経痛が慢性化した症例に対する経皮的電気神経刺激の鎮痛効果—シングルケース BABA デザインによる検討—
第26回日本ペインリハビリテーション学会学術大会. 2022年6月@神戸
ケーススタディにて帯状疱疹後の三叉神経痛に対する TENS 効果を検証した.

5. 松田総一郎, 浦上慎司, 井川祐樹, 大住倫弘
感覚運動の不一致によって生じる患肢の重だるさが外傷性骨折後の痛みを遷延化させる
第 26 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会. 2022 年 6 月@神戸
鏡を用いて運動と視覚フィードバックの不一致を惹起した際に経験する異常感覚と痛みの慢性化に関係があるのか検証した.
6. 西 祐樹, 生野公貴, 南川勇二, 大住倫弘, 森岡 周
脳卒中後疼痛は片麻痺患者の上肢活動量低下を助長させる
第 26 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会. 2022 年 6 月@神戸
脳卒中患者の上肢活動量と痛みの関係を調査した. 上肢機能障害の程度にかかわらず, 疼痛あり群はなし群に比べ麻痺側の活動時間および活動強度が低下していた.
7. 佐藤剛介, 大住倫弘, 森岡 周
安静時脳波の修飾が疼痛閾値へ及ぼす影響 — 健康者を対象とした予備的研究 —
第 26 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会. 2022 年 6 月@神戸
健康成人を対象に経頭蓋交流電気刺激 (Transcranial alternate current stimulation: tACS) を行い, 疼痛閾値と安静時脳活動が変化するかを検証した.
8. 田中陽一, 藤井 廉, 重藤隼人, 佐藤剛介, 森岡 周
身体活動量が日中の疼痛律動性に及ぼす影響
第 26 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会. 2022 年 6 月@神戸
慢性疼痛者 24 名を対象に, 疼痛律動性と日中の身体活動量を調査した. 日中に痛みが増加する群は同時間帯の軽強度活動時間が日中に痛みが低下する群と比べて有意に低い傾向を示していることを明らかにした.
9. 重藤隼人, 西 祐樹, 大住倫弘, 森岡 周
Neglect-like symptoms は慢性腰痛患者の特異的運動制御に関連する — ランダムフォレスト後の一般化線形モデル分析 —
第 26 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会. 2022 年 6 月@神戸
慢性腰痛患者の特異的な運動制御パターンである屈曲弛緩不全には, Neglect-like symptoms が最も関連することが明らかになった.

10. 重藤隼人, 古賀優之, 田中陽一, 平川善之, 森岡 周
急性痛と慢性疼痛に特異的な運動痛の性質 ―アソシエーションルール分析を用いて―
第 26 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会. 2022 年 6 月@神戸
アソシエーションルール分析により運動痛に関連する痛みの性質を抽出した. 結果, 運動痛に関連する痛みの性質は急性痛と慢性疼痛で異なり, 痛みの時期によって特異的な痛みの性質があることが示唆された.
11. 重藤隼人, 古賀優之, 田中陽一, 平川善之, 森岡 周
慢性筋骨格系疼痛の病態分類と出現様式の特徴 ―クラスター分析を用いて ―
第 26 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会. 2022 年 6 月@神戸
慢性筋骨格系疼痛患者を対象に安静痛, 運動痛, 夜間痛の出現様式と NeP (神経障害性疼痛) と NoP (痛覚変調性疼痛) の関連性を調査した. NeP と NoP は特異的に関連せず, 運動痛は NeP と NoP が混合し, 夜間痛は NoP がより特異的に関連した.
12. 阪上奈巳, 信迫悟志
出生状況の違いによる乳幼児の Calming Responses
日本赤ちゃん学会第 22 回学術大会. 2022 年 7 月@栃木
正期産・正出生体重児をもつ母親は, 児を抱っこにて歩き回った際の運搬時鎮静反応を経験していることが示されたが, 早産・低出生体重児をもつ母親では, 運搬時鎮静反応を経験していない可能性が示された.
13. 大住倫弘, 猪俣一則, 岡田 敦, 井上裕治
幻肢痛緩和のための遠隔デジタルミラーセラピー
第 21 回日本 VR 医学会学術大会. 2022 年 8 月@名古屋
“遠隔デジタルミラーセラピー”をつかって, 物理的には別々の場所にいる幻肢痛当事者とセラピストが同じバーチャル空間に入り, 幻肢を動かすリハビリテーションを実施し, その効果を検証した.
14. 南川勇二, 西 祐樹, 生野公貴, 森岡 周
回復期脳卒中患者の運動麻痺の重症度と上肢活動量の特徴分類
第 56 回日本作業療法学会. 2022 年 9 月@京都
回復期脳卒中患者の運動麻痺の重症度と上肢活動量の評価項目から分布特性を把握し, サブグループ化を試みた. またそのサブグループの特徴を明らかにした.

15. 大住倫弘, 今井亮太

橈骨遠位端骨折後に痛みを有する症例の安静時脳波マイクロステート

第 27 回日本基礎理学療法学会学術大会. 2022 年 9 月 @大阪

橈骨遠位端骨折後に痛みを有する症例の安静時脳波を記録し, 痛みと相関する脳波 microstate を明らかにした.

16. 大塚健太, 冷水 誠

予測可/否条件における異なる距離ステップ動作が予測的姿勢制御反応に与える影響に関する検証

第 27 回日本基礎理学療法学会学術大会. 2022 年 9 月 @大阪

健常若年者を対象とし, 異なるステップ幅およびステップの予測可否による APA 反応の違いを反応時間および筋活動から検証した結果, 健常若年者のステップ動作では, ステップ幅および動作の予測可否が APA 反応に与える影響は少ない可能性が示唆された.

17. 塩崎智之, 岡田洋平, 中村潤二, 植田耕造, 田中宏明, 北原 紬

片側末梢前庭障害症例の前庭脊髓路興奮性と平衡障害の関係性についての予備的検討

第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月 @大阪

片側末梢前庭障害症例の前庭脊髓路興奮性を神経生理学的手法を用いて評価し, 閉眼ラバー条件の立位における足圧中心の動揺範囲などに関連することを明らかにした.

18. 奥田悠太, 菊地 豊, 岡田洋平, 浦上英之, 二階堂泰隆, 美原 盤

脊髓小脳変性症における歩行不安定性の検証

第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月 @大阪

脊髓小脳変性症患者の床上歩行時の Margin of stability は健常者と比較して, 前後方向および左右方向ともに健常者と比較して高い値を示すことを明らかにした.

19. 成田 雅, 坂野康介, 岡田洋平, 中城 雄, 森若文雄, 濱田晋輔

パーキンソン病患者の起居動作能力低下の関連要因の解明

第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月 @大阪

パーキンソン病の寝返り速度の低下には上肢寡動が, 起き上がり・寝転がり速度の低下には持続性注意の障害が関与することを明らかにした.

20. 甲斐太陽, 岡田洋平, 藤原裕貴, 池本郁花, 辻本実奈美, 佐竹裕輝,
本田 憲胤
パーキンソン病の疾患重症度により障害される姿勢制御の要素の検証
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月@大阪
パーキンソン病患者が疾患の進行に伴い姿勢制御のどの要素が障害される傾向にあるのかについて, ini-BESTest を用いて横断的に検証した結果を報告した.
21. 長尾綾菜, 藤井慎太郎, 生野公貴, 岡田洋平
静止立位と安定性限界の特徴からみた立位姿勢障害の評価ー脳卒中およびパーキンソン症候群症例の対比的検討ー
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月@大阪
脳卒中患者, パーキンソン病患者, 進行性核上性麻痺の患者を対象に LOS と立位姿勢制御を評価し, 両指標の関連性の観点から各疾患の特性について予備的に検討した結果を報告した.
22. 信迫悟志, 温 文, 中井昭夫, 森岡 周
行為-結果規則性の知覚感度の発達変化
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月@大阪
5-6 歳児では 9-16 歳児と比較して, 行為-結果規則性の知覚感度がまだ未成熟であり, 手運動技能と相関関係にあることを明らかにした.
23. 平松良規, 信迫悟志
視聴覚刺激の空間的一致／不一致が健常者と半側空間無視患者の視線移動に及ぼす影響
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月@大阪
健常者 (20-50 歳) と半側空間無視患者 (10-80 歳) の, 時空間的に一致した視覚ターゲット刺激が視線移動に及ぼす影響を明らかにした.
24. 浦上慎司, 大住倫弘, 松田総一郎, 井川祐樹, 壹岐伸弥, 古賀優之,
田中陽一, 佐藤剛介, 植田耕造
脳卒中後疼痛における痛みの性質に基づくサブグループ解析とリハビリテーション予後
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月@大阪
痛みの性質を評価する質問紙を使用し脳卒中後疼痛患者の痛み特性と予後を明らかにした.

25. 松田総一郎, 浦上慎司, 井川祐樹, 壹岐伸弥, 大住倫弘, 森岡 周
脳卒中後疼痛患者の痛みと温度感覚障害に対するサーマルグリル錯覚を用いた検証
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月 @大阪
脳卒中後疼痛患者の痛みと温度感覚異常の関係性をサーマルグリル錯覚を用いて検証した.
26. 西 祐樹, 南川勇二, 生野公貴, 森岡 周
回復期脳卒中患者の実生活環境における歩行の冗長性の特徴
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月 @大阪
実生活環境における歩行の冗長性を加速度計を用いて明らかにした.
27. 立石貴樹, 山中英士, 後藤凌介, 佐藤悠樹, 奥山航平, 川上途行, 近藤国嗣, 森岡 周
回復期脳卒中患者における立位制御能の経時的変化: SDA 解析と周波数解析を用いた単一症例研究
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月 @大阪
回復期脳卒中患者の 1 例の静止立位時の CoP について, SDA 解析および周波数解析を含む多面的分析を行い, 立位姿勢制御能の回復過程を調査した.
28. 南川勇二, 西 祐樹, 藤井慎太郎, 生野公貴, 森岡 周
回復期脳卒中患者における上肢活動量の時空間特性—加速度計を用いた特徴分類—
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月 @大阪
回復期に入棟中の脳卒中患者および運動器疾患患者の上肢活動量(強度変数・時間変数)の特徴からサブグループ化を試みた.
29. 佐藤悠樹, 蓮井成人, 大西 空, 田口潤智, 中谷知生, 森岡 周
小脳への経頭蓋直流電気刺激が小脳性失調患者の歩行および姿勢動揺に与える影響: 症例研究
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月 @大阪
小脳性失調患者の歩行・姿勢障害に対する tDCS の効果を ABA シングルケースデザインにて調査した.

30. 水田直道, 蓮井成仁, 西 祐樹, 比嘉康敬, 松永綾香, 山本泰忠,
大西 空, 佐藤悠樹, 中谷知生, 田口潤智, 森岡 周
脳卒中患者の歩行における筋シナジー併合の下降性神経メカニズム
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月@大阪
脳卒中患者の歩行時における筋シナジーの併合に関連する下降性神経メカニズム
を明らかにした.
31. 藤井慎太郎, 生野公貴, 武田賢太, 森岡 周, 河島則天
パーキンソン病症例における姿勢制御特性－異なる姿勢障害の特徴を
持つ 3 症例の対比的考察－
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月@大阪
異なる姿勢障害の特徴を示したパーキンソン病患者 3 症例について, 静止立位お
よび随意動揺時の重心動揺・下腿筋活動の関係から, 姿勢障害の要因について対比
的に検討した.
32. 緒方練人, 桂 祐一, 森岡 周
年齢別による能動・受動的注意機能の比較－若年者および高齢者を対
象とした予備的横断研究－
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月@大阪
本研究では, 若年者と高齢者を対象とし, 能動・受動的注意機能を比較検討した.
33. 林田一輝, 西 祐樹, 森岡 周
歩行中の感覚運動不一致に関する研究－自己の観察視点に着目した
予備実験の報告－
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月@大阪
健常者を対象に自己観察視点の違いに着目してフィードバック方法を操作し, 歩
行中の感覚運動不一致が異常知覚に与える影響について検証した.
34. 赤口 諒, 武田賢太, 田中幸平, 大石裕也, 生田純一, 上田有姫,
脇坂成重, 奥埜博之, 森岡 周, 河島則天
脳卒中症例の物体把持時の運動出力発揮・制御特性－諸評価変数と運動
麻痺・感覚障害の関連性に着目して－
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月@大阪
脳卒中患者の 41 名を対象に, 把持力調節特性が運動麻痺と感覚障害どのように関
連するかを分析し, 感覚障害が把持力のフィードバック調節だけでなく, 予測制御
に影響を与えることを明らかにした.

35. 赤口 諒, 奥埜博之, 森岡 周, 河島則天
橋梗塞症例の日常生活動作改善までの姿勢制御能力の経過報告
立位姿勢と下腿筋活動の協調性に着目して
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月@大阪
橋梗塞後の片麻痺により不安定な姿勢制御を呈した症例の ADL 動作の改善の経過について, 立位姿勢と下腿筋活動の協調性の観点から計測・分析を行い, 運動麻痺やバランス機能の評価とともに病態メカニズムの経時的変化を調査した.
36. 植田耕造, 福本匠吾, 多久和良亮, 北川拳士, 吉田圭佑, 浦上慎司, 松本拓也, 中尾修平, 森岡 周
脳卒中患者の歩行自立度予後予測モデル(TWIST model)の外的妥当性の検証 -過去起点コホート研究-
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月@大阪
脳卒中の歩行自立度の予後予測モデルである TWIST model の外的妥当性を検証し, model とは異なる確率になることから外的妥当性が低いことを明らかにした.
37. 池田法子, 乾 康浩, 水田直道, 大川雄一郎, 山田恵美加, 後藤宗一郎, 布施優一, 森岡 周, 田邊 望, 松下 功
被殻出血患者における機能回復過程について- 歩行自立度別にみた比較検討
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月@大阪
被殻出血患者を対象に, 歩行自立度別に臨床機能項目の経時的変化を比較した. 麻痺の重症度, 運動 FIM, 認知 FIM, BBS では発症後 2 週以降で有意差が認められた. 2 群とも発症 2 週時の点数と比べ 8 週時以降の点数に有意差が認められた.
38. 松永綾香, 蓮井成仁, 比嘉康敬, 大西 空, 佐藤悠樹, 田口潤智, 中谷知生, 森岡 周
脳卒中後に自覚的視性垂直位障害を呈した症例への経頭蓋直流電気刺激と直流前庭電気刺激の試み
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月@大阪
脳卒中後にみられる自覚的視性垂直位(SVV)の偏位は姿勢バランスに影響するが, 側頭頂葉皮質下損傷患者に適応し, その効果を検証した.

39. 平山幸一郎, 齋藤理紗, 松田麻里奈, 照屋 萌, 湊上 健, 森岡 周
脳卒中患者の上肢運動機能と使用頻度の傾向; Segment 回帰分析を用いた探索研究
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月@大阪
207 名の脳卒中患者を対象に, FMA-UE の得点を Segment 回帰分析を用いて分割し, MAL における麻痺側上肢の使用頻度の傾向の違いを検証した. 結果から, FMA-UE における 44 点を境に, 麻痺側上肢の使用頻度の傾向が変化することが示唆された.
40. 大谷武史, 宮脇 裕, 森岡 周
脳卒中後の感覚運動障害が予測誤差と運動主体感の相関関係に及ぼす影響
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月@大阪
脳卒中後の感覚運動障害が予測誤差と運動主体感の相関関係に及ぼす影響を検証した. 脳卒中後の感覚運動障害によって, 運動主体感の生成に影響を及ぼすことを示唆した.
41. 井川祐樹, 大住倫弘, 松田総一郎, 浦上慎司, 壹岐伸弥, 湊上 健, 松田麻里奈, 村山慎弥, 木山風香, 内沢秀和, 中田佳祐, 西 祐樹, 森岡 周
視床病変 5 症例における中枢性疼痛の特徴の違い—体性感覚機能の特性と脳画像解析—
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月@大阪
中枢性脳卒中後疼痛は異常感覚や痛覚過敏を主症状とした難治性疼痛であるが, 今回は痛みの予後や異常感覚の特徴に違いがあるのかを分析した. 結果, 視床枕と髄板内核群の損傷や定量的な感覚機能異常の特性があることが判明した.
42. 照井あゆみ, 橋本有司, 安村広之, 川湊宏美, 高芝 潤, 森岡 周
脳卒中片麻痺患者に対する機能的電気刺激とトレッドミル歩行練習の併用の試み: 単一症例報告
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月@大阪
回復期脳卒中片麻痺症例に対し, FES を併用した歩行練習を実施した. 10m 快適歩行速度は 1 日目と 7 日目で変化を認めなかったが, 6 分間歩行の結果から歩行耐久性の改善を認めた.

43. 安村広之, 高芝 潤, 森岡 周
理学療法士による AFO とショートタイプ AFO の選定に関する因子の探索 ;回復期脳卒中片麻痺患者を対象に
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月@大阪
理学療法士は回復期脳卒中片麻痺患者の歩容を下肢装具の選定に関する意思決定に用いている. 麻痺側下肢機能と歩行能力に加え骨盤から膝関節といった身体近位部の歩行時の動きも装具の選定要因になっていることが示唆された.
44. 堀めぐみ, 蓮井成仁, 松永綾香, 大西 空, 比嘉康敬, 佐藤悠樹, 田口潤智, 中谷知生, 森岡 周
歩行練習と併用した一次運動野および小脳への経頭蓋直流電気刺激が重症脳卒中患者の下肢筋活動に及ぼす影響
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月@大阪
重症脳卒中患者の下肢運動麻痺と運動失調に対し, M1 および小脳への tDCS を併用した介助歩行トレーニングが筋活動と CST の興奮性に与える影響を検証した. 小脳への tDCS は失調側の筋活動と拮抗筋間のコヒーレンスを改善した可能性があることが示された.
45. 明神早甫, 中川大種, 安村広之, 高芝 潤, 森岡 周
小脳性運動失調症を呈した症例に対する split-belt treadmill 歩行練習の効果: ケースシリーズ研究
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月@大阪
小脳性運動失調症 3 症例を対象に split-belt treadmill (SBT) を用いて外乱を与えた歩行練習効果について報告した. 結果, SBT はバランス能力および歩行速度の貢献することが示唆された.
46. 親川なつみ, 合田陸斗, 芝 貴裕, 蓮井成仁, 松永綾香, 中谷知生, 田口潤智, 森岡 周
直流前庭電気刺激が Wallenberg 症候群を呈した脳卒中患者の立位および歩行に及ぼす即時的影響: 症例研究
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月@大阪
Wallenberg 症候群を呈し立位および歩行時の不安定性が著明であった脳卒中患者に対し, 直流前庭電気刺激 (GVS) を併用したトレーニングが立位および歩行に及ぼす即時的影響を後ろ向きに検証した. GVS を併用することで立位や歩行の前後方向の不安定性が軽減し, 姿勢制御が改善する可能性が示唆された.

47. 梶上 健, 岩崎俊樹, 中村兼張, 森岡 周
両眼性複視を呈した症例に対する眼球運動練習の亜急性期経過
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月 @大阪
びまん性軸索損傷によって両眼性複視を呈した男性に対し眼球運動練習を実施し経過を報告した. 眼球運動練習は左眼球の外側方向への運動が改善され両眼性複視もわずかに軽減した. アイパッチ非装着下でも日常生活活動が可能になった.
48. 重藤隼人, 古賀優之, 田中陽一, 平川善之, 森岡 周
身体知覚異常と特異的に関連する痛みの性質分類および疼痛表現
ー一般化線形モデル分析を用いてー
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月 @大阪
疼痛患者 187 名を対象に調査をした結果, 身体知覚異常の病態別に特異的な疼痛表現が関連することがわかり, 「かじられるような痛み」が身体知覚異常と関係が強い疼痛表現であることが示された.
49. 浅野大喜, 武田真樹, 信迫悟志, 森岡 周
脳性麻痺におけるレーヴン色彩マトリックス検査のエラー分析
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月 @大阪
脳性麻痺患者の知的能力を測定するレーヴン色彩マトリックス検査 (RCPM) におけるエラー分析を行った. 結果, 脳性麻痺群は定型発達群よりも抽象的推論能力に必要な Factor II の正答率が低かった. また, エラーの種類や位置にも差があった.
50. 平川 善之, 森岡 周
痛みにより出現した身体認識能力の低下および半側空間無視を改善させる新しい試み: 症例報告
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月 @大阪
複合性局所疼痛症候群 (CRPS) 患者の空間注意能力の特徴を評価し, 疼痛関連因子との関連を調べた. 結果, 受動的注意課題において患側端のオブジェへの反応速度が顕著に遅延する傾向が認められ, 介入後に改善が見られた.
51. 大西 空, 水田直道, 蓮井成仁, 田口潤智, 中谷知生, 森岡 周
一次運動野への経頭蓋直流電気刺激が脳卒中患者の歩行制御に及ぼす影響-遊脚期の下肢関節角度と筋活動パターンに着目して-
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月 @大阪
脳卒中患者に対し, 一次運動野への tDCS を歩行練習と併用することで, 下肢関節角度および同期した下肢筋活動を減少させる効果があることが示唆された.

52. 比嘉康敬, 水田直道, 蓮井成仁, 田口潤智, 中谷知生, 森岡 周
外骨格型歩行ロボットが脳卒中患者における歩行時の皮質運動関連領野の活動に及ぼす影響：症例研究
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月@大阪
脳卒中後, 股関節機能不全が足クリアランス低下に影響することが示唆された症例に Honda 歩行アシスト(HWAD)が適応された. 結果, HWAD の使用によって足部の引っかかり回数が減少し, 皮質運動関連領野の興奮性が減少した.
53. 芝 貴裕, 水田直道, 蓮井成仁, 大西 空, 田口潤智, 中谷知生, 森岡 周
Bihemispheric-tDCS が亜急性期脳卒中患者の上肢機能および皮質脊髓路興奮性に及ぼす影響：症例研究
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月@大阪
亜急性期脳卒中患者に対して経頭蓋直流電気刺激 (tDCS) の陰極を非損傷半球 M1 へ配置し刺激する手段 (Bi-tDCS) が上肢遠位部の筋活動パターンや皮質脊髓路興奮性へ及ぼす影響を検証した結果, Bi-tDCS は皮質脊髓路興奮性増加や同時収縮指数を減少させた.
54. 乾 康浩, 水田直道, 西 祐樹, 山口有紀, 森岡 周
脳卒中患者の不整地歩行の特徴—生体力学的パラメータと神経筋制御の変化—
第 20 回日本神経理学療法学会学術大会. 2022 年 10 月@大阪
脳卒中患者の不整地歩行困難について調査を行った. その結果, 平地と比べて不整地での歩行速度が低下し, 股関節伸展低下や下腿筋活動時間の増加がみられ, 非効率な戦略をとっている可能性があることが示唆された.
55. 信迫悟志, 温 文, 中井昭夫, 森岡 周
発達性協調運動障害を有する児における行為・結果の規則性の知覚感度
第 9 回日本小児理学療法学会学術大会. 2022 年 11 月@Web
発達性協調運動障害 (DCD) を有する児では, 定型発達児と比較して, 行為・結果の規則性の知覚が低下していることを明らかにした. しかしながら, DCD を有する児における行為・結果の規則性の知覚感度は, 年齢の増加に伴い改善することも示した.

56. 阪上奈巳, 青山宏樹, 信迫悟志

染色体異常などの病児における Calming Responses

第9回日本小児理学療法学会学術大会. 2022年11月@Web

染色体異常などの病児を対象に, だっこによる運搬時鎮静反応を生体反応測定によって定量的に調べたところ, 自発運動には鎮静反応が認められることを明らかにした.

57. 大住倫弘

断端周囲筋への電気刺激は幻肢の運動経験を強化できるか?

日本物理療法合同学術大会. 2023年2月@東京

断端周囲筋を経皮的に電気刺激すると幻肢を動かしやすくなるのかを検証した. 症例Aでは電気刺激によって幻肢の運動経験が強化されることはなかったが, 症例Bは電気刺激によって幻肢を回外方向へ動かせるようになったことに加えて, ねじれるような痛みも緩和した.

58. 木下 栞, 大住倫弘

腕神経叢不全損傷患者に対するミラーセラピーの介入効果の検討
ー脳筋コヒーレンス解析を用いてー

日本物理療法合同学術大会. 2023年2月@東京

腕神経叢損傷症例1名を対象に, ミラーセラピー中の脳筋コヒーレンスを解析した. その結果, β 帯域と γ 帯域の脳筋コヒーレンス値が増大していた. また, β 帯域においては対側運動野だけでなく, より広範囲にわたる脳領域でコヒーレンスが認められた.

59. 立石貴樹, 西 祐樹, 松井菜緒, 立本将士, 伊藤惇亮, 近藤国嗣,
森岡 周

日本物理療法合同学術大会. 2023年2月@東京

重度感覚鈍麻を呈する脳卒中症例のしびれ感に対して, 非麻痺側を参照としたパラメータ設定で両側刺激を行ったことによって, しびれ感が改善した症例報告を行なった.

60. 西 祐樹, 生野公貴, 南川勇二, 中田佳佑, 大住倫弘, 森岡 周
中枢神経障害によるしびれ感に対するしびれ同調経皮的電気神経刺激
の効果検証 ―マルチプルベースラインデザイン―
日本物理療法合同学会大会. 2023 年 2 月 @東京
しびれ同調 TENS による中枢神経系疾患患者のしびれ感改善効果をシングルケー
ス実験で検証した. 5 名の患者を対象にしびれ感の強度を毎日聴取し, 介入期とフ
ォローアップ期で効果量を測定した. 結果, 効果量が高く有意に改善したことが示
されたが, 同じ疾患でも患者によって持続効果が異なった.
61. 松永綾香, 蓮井成仁, 水田直道, 田口潤智, 中谷知生, 森岡 周
律動刺激と経頭蓋直流電気刺激の併用が小脳梗塞後症例の立位姿勢バ
ランスに及ぼす影響: トレーニング中の姿勢制御に着目して
日本物理療法合同学会大会. 2023 年 2 月 @東京
小脳梗塞後症例に対して律動刺激と小脳への tDCS を併用した結果, 下腿筋の同
時収縮を減少させ, Berg Balance Scale を向上させることが報告された.
62. 松尾梨恵, 松永綾香, 蓮井成仁, 佐藤悠樹, 田口潤智, 中谷知生,
森岡 周
側頭頭頂接合部への経頭蓋直流電流刺激が脳卒中患者の立位姿勢バラ
ンスに及ぼす影響: 症例報告
日本物理療法合同学会大会. 2023 年 2 月 @東京
側頭頭頂接合部に損傷を持つ脳卒中患者に対して, tDCS を併用した立位トレー
ニングが, 立位姿勢バランスおよび重心動揺変数に有益な影響を与える可能性があ
ることを報告した.
63. 大西 空, 水田直道, 蓮井成仁, 田口潤智, 中谷知生, 森岡 周
側頭頭頂接合部への経頭蓋直流電気刺激が脳卒中患者の歩行安定性お
よび規則性に及ぼす影響 ―シングルケーススタディー―
日本物理療法合同学会大会. 2023 年 2 月 @東京
側頭頭頂接合部の損傷を伴う脳卒中患者に対して, 側頭頭頂接合部 (TPJ) への
tDCS が歩行安定性や規則性に及ぼす影響を検証した. 結果, TPJ への tDCS によ
り自覚的視性垂直位の偏移が軽減し歩行の安定性を改善させることが示唆された.

4. 2. 国際学会

64. 乾 康浩, 水田直道, 西祐樹, 山口有紀, 森岡 周

Characteristics of uneven surface walking in post-stroke patients:
Kinematics and neuromuscular control

International society of posture & gait research World congress 2022
@Montreal

脳卒中患者の不整地歩行時の運動学的な変化とシナジーの関係を明らかにした.

65. 水田直道, 蓮井成仁, 西 祐樹, 比嘉敬康, 松永綾香, 出口純次,
山本泰忠, 中谷知生, 田口潤智, 森岡 周

Effect of temporal asymmetry on muscle synergy during walking with
rhythmic auditory cueing in post-subacute stroke patients

International society of posture & gait research World congress 2022
@Montreal

脳卒中患者の歩行時における筋シナジーの制御不全には, 時間的非対称性が影響
していることを実験的に明らかにした.